

大越さんら 報道の役割語る



参加者と意見交換する（壇上左から）大越健介さん、南山大の山岸敬和教授、同大の奥田太郎教授、加藤美喜編集委員＝14日午後、名古屋市昭和区で

ジャーナリスト・カフェイン名古屋

報道の役割や在り方を考
える「ジャーナリスト・カ
フェイン名古屋」が14日、
名古屋市昭和区の南山大で
あり、テレビ朝日「報道ス
テーション」の大越健介キ
ャスターと南山大の山岸敬
和、奥田太郎教授、加藤
美喜・中日新聞編集委員
が、米大統領選などを題材
に、参加者と語り合った。

大越さんは、米大統領選

や「非常戒厳」宣言が発令
された韓国での現地取材
の経験を振り返り「現場に
行かないと分からないこ
とがたくさんある」と強
調。

新聞・テレビ報道が「社
会インフラとして非常に重
要」とした上で、交流サイ
ト（SNS）とともに「良
い点、欠点があり、決して
対立軸をつくっているので

はない。一人一人のメデイ
アリテラシーが問われている」と語った。

奥田教授も「（情報を入
手する）チャンネルを多様
にすることが大事だ」と指
摘。加藤編集委員は、事件
取材の経験などから「私た
ちは、よく調べた上で確実
なものを報じている」と説
明した。

山岸教授は、米大統領選
の複雑な仕組みを巡り「州
ごとに憲法や軍、税制があ
ることを感覚として持ちな
がら米国を見る必要がある
」と話した。

ジャーナリスト・カフェ
はこれまで新潟県と大阪府
で計3回開催され、名古屋
では初めて。今回は中日新
聞社、南山大とカナリア舎
の共催で、約400人が参
加した。（山口哲人）

◇
22日付の特集面で詳報す
る予定です。